

を考えさせる。

子どもたちには、そこで出された委員会を新年度の委員会の組織とすることを話した。

この段階で、前年度まであった「給食委員会」と「飼育委員会」がなくなった。これまで給食委員会と飼育委員会がやっていた当番的な活動は、私の学級（6年生）の当番活動としてやることにした。

3) どの委員会に所属して活動したいか、子どもたちの希望調査をする。

希望者のいない委員会はなくそうと思っていたが、全部の委員会に所属希望があったので、そのまま残すことにした。

これは、学級での係活動の進め方をそのまま委員会活動に当てはめたやり方でした。委員会を作る段階から子どもたちに任せたものですから、それまでに比べると、子どもたちの活動が主体的になったし、内容も創造的なものが大幅に増えました。

2 学習指導要領解説～特別活動編～を読む その1

山口市立平川小学校 梶田崇晴

去る7月1日に、文部科学省のホームページに、学習指導要領の解説が公開されました。若干の誤字を修正して、9月には出版されるということです。

出版されるまで待てなかった私は、さっそくプリントアウトして読みました。今回から、解説書を読んで分かったことや思ったことなどを少しずつお知らせしていくことにします。

さて、特別活動の解説書、これまで89ページだったのに対して、新しい解説書は、なんと142ページと大増量されていました。なぜそんなに増えたのでしょうか。それは、新しい解説書では、これまでののに比べると具体的な例示がたいへん充実している、ということなのです。ですから、「特別活動ってどういう実践をしたらいいの？」と不安を感じた人でも、解説書をていねいに読んでいけば、きちんと実践ができるようになっていくということなんです。そういう意味から、全国の先生方には、この解説書を必ず一度は読んでほしいと思いました。

次回から、解説書の中身に入っていくことにして、今回は、学習指導要領がつくられるもととなった中央教育審議会答申の中に書かれていた「特別活動の課題」をまとめておきます。

◆特別活動の課題◆◇◆

○ 特別活動の充実は学校生活の満足度や楽しさと深くかかわっているが、他方、それらが子どもたちの資質や能力の育成に十分つながっていない状況も指摘され

ている。

- 学校段階の接続の問題としては、小1プロブレム、中1ギャップなど集団への適応にかかわる問題が指摘されている。
- 情報化、都市化、少子高齢化などの社会状況の変化を背景に、生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下などが顕著になっており、好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況も見られる。
- 特別活動について、全体の目標は示しているが、各内容ごとの目標は示していない。このため、活動を通して何を育てるかが明確でないことや、総合的な学習の時間などとの教育活動の重なりも指摘されている。
- 特別活動の中でも、その基盤的な役割を担う学級活動やホームルーム活動の内容については、小学校では6年間を通じた活動内容をまとめて示しているため、発達や学年の課題に対応した適切な活動が行われにくいとの指摘がある。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第62号は7月下旬ごろ発行予定です。

次号も続けて委員会活動の活性化と解説書についてお送りします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は225名です。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp

本年度中に特別活動の年間計画をつくる必要があります。そのあたりについても可能な限り書いていこうと思います。

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

本メールマガジンでは、次のような新しいテーマで情報交換を行ってみようと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

*こんな時、どうする？コーナー

学級での生活の中でのいろいろな場面を想定し、その時、どういう手立てをうてばよいか、についての実践を紹介してください。これまでに取り組まれたことのある実践もお待ちしています。

*学級づくりで、はっ！とさせられたこと

長く学級担任をやっていると、自分のやり方が当たり前になってしまっていることに気づかされることがあります。それを教えてくれるのが子どもたちだったりします。そういう出来事や子どもたちのつぶやきを紹介してください。

*子どもってすごいなあ！と思ったこと

子どもがもっているものって素晴らしいです。子どもたちといると、「子どもってすごいなあ」と感心させられることが多々あります。子どもたちのそういう姿を紹介しあいませんか。

みなさんも、ぜひ以下のアドレスまでよろしくお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====